

神宮教化研修会



県神社庁は6月26日から27日に、伊勢市の神宮会館において神宮教化研修会を34名の参加者において開催した。

本研修は、昨年第62回式年遷宮の諸行事を恙無く終えられたことから、今後は次回遷宮に向けてもう一度基礎から神宮のことを学び次世代の遷宮を担う人材を育成することを目的に執り行われた。

26日昼、神宮会館に集合し開講式。開式の辞、神宮遥拝、敬神生活の綱領唱和に続き牧野副庁長より「20年後の遷宮に中心的な役割を果たすために研鑽を重ねて頂きたい。全国八万社の内99パーセント以上は所謂鎮守の社であり、生活の営みの中で村の安全、五穀豊穡が祈られている。そうした中で神社を中心とする精神文化や郷土の芸能・文化が守られている。それが神社神道の基礎であり、日本の国柄でもある、それを大切に守って行くことが神宮を守って行くことに繋がる」との言葉があった。

初めに、神宮権禰宜木本雅文氏より「神宮大麻」についての講義があり、氏は神宮大麻の意味について、明治維新に御師による御祓大麻が神宮大麻への移行したのは前者が個人の祈禱の賜物であったことからこれを廃し、後者に神武創業の国家的・公的な役割を附するという目的であったことを述べ、日本国家の精神的構造を体現していると説明された。

続いて同じく権禰宜森真吾氏より「式年遷宮について」についての講義があり、遷宮の諸行事は1300年間、陛下を中心に国民の支えによって文化を守るために行われてきたものであると述べ、様々な事例を挙げてそれを説明された。

夜間参拝の後、神宮権禰宜吉川竜美氏は「神宮の歴史」と題して、信仰という側面から神宮の歴史について、天照大神は皇室の祖先神、日本の総氏神であり、秩序と調和をもたらす神であり、万物を育む神であると語られた。更に氏は、遷宮の歴史的な経過について述べられ、遷宮は国家・国民挙げての行

事として今後も力の限り守って行かなければならないと結論付けられた。

翌日は、早朝に愛知県禊錬成行事道彦の片山貢氏の先導で禊を行った後神宮参拝、その後は農業館、
徴古館、神宮美術館の見学、倭姫宮の参拝を行った後神宮会館にて閉講式、参加者の代表に修了証が手
渡された後意義深い研修を終えた。